

# 越前さんの家計簿

平成27年度一般会計決算の歳入と歳出を1,000分の1にし、「越前さん」の1年間の家計に置き換えてみました。

## 収入

①給料	253万円
・町税（町民税や固定資産税など、みなさんから納められた税金）	
②財産・臨時収入	77万円
・使用料（町の施設や設備の利用料など）	
・負担金（町の事業で利便を受ける人が負担するお金）	
・諸収入（貸付金の元利収入や団体・個人からの負担金など）	
・財産収入（町の土地などの売却代金）	
・寄附金（個人や団体から寄附されるお金）	
③貯金の取崩し	19万円
・繰入金（町が積み立てているお金（基金）の取崩しや特別会計・企業会計から受け入れるお金）	
④前年度の残金	87万円
・繰越金（前年度決算からの繰越金）	
<b>小計(A) ※自主財源</b>	<b>436万円</b>
⑤支援金	930万円
・地方交付税（国から交付されるお金）	
・国・県からの補助金（法律などに基づく交付金や事業の実施に対する補助金）	
⑥借入れ	153万円
・町債（銀行などからの借金）	
<b>小計(B) ※依存財源</b>	<b>1,083万円</b>
<b>収入合計(A)+(B)</b>	<b>1,519万円</b>

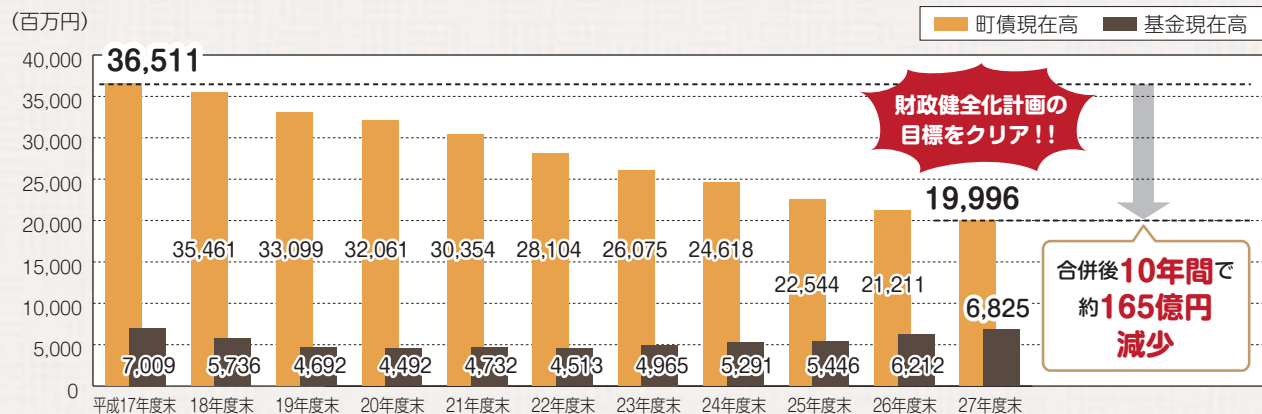
## 支出

①生活費	547万円
・人件費（各種委員の報酬や職員給与に係るお金）	
・物件費（施設の管理費や事業の委託料など）	
・補助費など（団体などに対する負担金や補助金）	
②医療費	178万円
・扶助費（子どもや高齢者、障がい者の福祉などに係るお金）	
③借金の返済金	199万円
・公債費（町債の元金及び利息の支払いに係るお金）	
④家の増築や車の購入費	235万円
・普通建設事業費（町の施設や道路などの新・増築や大規模な設備の購入に係るお金）	
・災害復旧費	
⑤修繕費	15万円
・維持補修費（町の施設の修繕に係るお金）	
⑥子どもへの仕送り	165万円
・繰出金（特別会計や事業会計に支出されるお金）	
⑦貯金	77万円
・積立金（基金に積み立てるお金）	
⑧知人への貸付金	4万円
・貸付金（団体などに対し貸し付けるお金）	
<b>支出合計</b>	<b>1,420万円</b>

※町民1人当たりの現在の高は、平成27年度末の町債と基金の現在高を同年末の町の住民基本台帳人口22,556人で割ったものです。

人口1人あたり現在高  
町債(借金) 約89万円  
基金(貯金) 約30万円

平成27年度末の一般会計特別会計、企業会計を合わせた町債(借金)の現在高は199億9,556万3千円、前年度より12億2,515万2千円の減少、基金(貯金)の現在高は68億2,481万1千円で前年度より6億1,252万5千円の増加となりました。町の財政健全化計画において、平成27年度末の町債現在高200億円を目標とした財政運営に努めており、事業の計画的な実施や繰上償還の実施により、目標を達成しました。



町債(借金)と基金(貯金)の現在高の推移

# 平成27年度 わたしたちのまちの決算報告

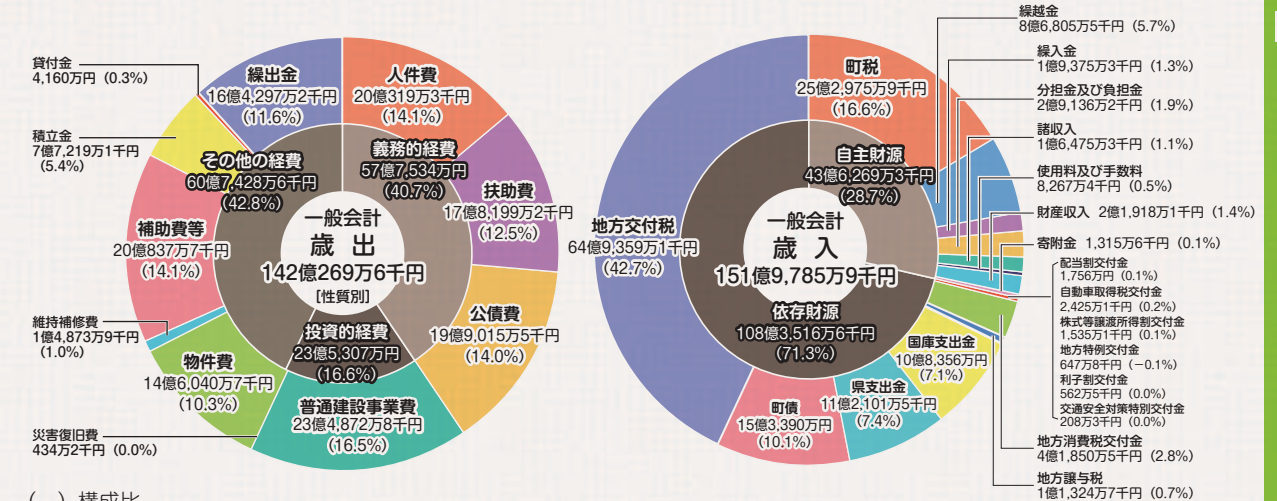
(単位:千円)

区分	歳入決算額		歳出決算額		歳入歳出差引残額 (A)-(B)		
	(A)	対前年度比 (%)	(B)	対前年度比 (%)			
一般会計	15,197,859	5.6	14,202,696	5.1	995,163		
特別会計	国民健康保険事業	2,645,714	8.2	2,631,950	13.2	13,764	
	介護保険事業	2,345,657	2.8	2,314,620	4.3	31,037	
	後期高齢者医療事業	227,622	▲1.5	225,602	▲2.4	2,020	
	簡易水道事業	469,043	▲2.5	463,763	▲3.2	5,280	
	公共下水道事業	834,422	▲0.8	827,649	0.6	6,773	
	集落排水事業	357,848	0.8	352,184	0.4	5,664	
	温泉事業	16,819	▲0.6	15,041	▲6.2	1,778	
	農林漁業体験学習館事業	26,850	▲0.2	26,850	▲0.2	0	
	土地区画整理事業	14,533	▲91.1	14,533	▲91.1	0	
	企業会計	上水道事業	収益的収支	268,920	▲9.2	261,185	▲6.6
		資本的収支	19,222	1.4	156,677	▲0.2	▲137,455
国民健康保険病院事業		収益的収支	312,818	0.1	319,138	6.3	▲6,320
		資本的収支	255,739	17.0	353,762	22.5	▲98,023
合計	22,993,066	4.2	22,165,650	4.7	827,416		

※決算額の千円未満を四捨五入しています。

平成27年度の一般会計、特別会計、企業会計を合わせた歳入総額は229億9,306万6千円で、前年度より9億1,696万8千円の増加、歳出総額は221億6,565万円で、前年度より7億3,652万5千円の増加となりました。また、歳入総額から歳出総額を差し引いた収支は、9億8,786万3千円の黒字となりました。そのうち、一般会計では、歳入が151億9,785万9千円で、前年度より8億1,093万4千円の増加(5.6%増)、歳出が142億2,699万6千円で、前年度より6億8,382万5千円の増加(5.1%増)となりました。

全会計の決算状況



( ) 構成比

**【歳入】** 一般会計の歳入総額は、前年度より8億1,093万4千円増加しました。主な要因として、町税が個人・法人町民税の増加などにより1億9,548万円の増加(8.4%増)となり、地方消費税交付金が消費税率の引上げなどに伴い1億7,775万1千円の増加(73.8%増)となりました。また、朝日地区統合保育所(あさひ保育所)や朝日児童センターの建設により、町債が4億1,250万円の増加(36.8%増)となりました。

**【歳出】** 一般会計の歳出総額も、前年度より6億8,382万5千円増加しています。主な要因として、普通建設事業費が朝日地区統合保育所・朝日児童センター建設事業、防災行政無線戸別受信機整備事業、小中学校体育館などの天井構造物耐震化工事などの実施により4億6,345万2千円の増加(24.6%増)となりました。また、町村合併による特例期間の終了が近づき普通交付税が段階的に縮減されていることから、将来の財政負担を軽減すべく町債の繰上償還を実施したことにより、公債費が1億8,259万7千円の増加(10.1%増)となりました。

一般会計歳入・歳出決算の状況



■平成27年度に実施した主な事業

快適で安全に住めるまちづくり

●宅地・住宅の整備

●町営住宅の長寿命化

町営住宅長寿命化計画に基づき、予防保全と耐久性を踏まえた給・配水管やトイレなどの改修を行いました。

3,753万9千円

●道路網の整備

●町道の整備

国の交付金などを活用し、町道の拡幅や消雪設備の設置、橋りょうを補修するための設計などを行いました。

2億9,914万9千円



▲歩行スペースの設置による安全の確保(町道福井線)

健康で安心して暮らせるまちづくり

●子育て・少子化対策の充実

●保育環境の充実

旧朝日中央保育所と旧朝日北保育所を統合した「あさひ保育所」を新築するとともに、「朝日児童センター」をあさひ保育所西側に移転新築しました。

8億2,097万5千円



▲保育所統合により新築されたあさひ保育所



▲老朽化により新築された朝日児童センター

●防災・救急体制の充実

●防災行政無線の整備

デジタル防災行政無線の放送内容を迅速かつ正確に受信するための戸別受信機を朝日地区の世帯を対象に設置しました。

1億8,198万3千円



▲宮崎地区西三区(熊谷、古屋、増谷)の交流拠点施設「くまカフェ」

人が輝き交流で満ちあふれるまちづくり  
地域コミュニティの育成  
●活動拠点の整備  
宮崎地区西三区(熊谷・古屋・増谷)と京都外国語大学の学生との協働によるまちづくり活動と拠点施設の整備を支援しました。  
600万円



▲改修により児童デイサービスに対応

元気で活力みなぎるまちづくり  
●農業の振興  
●農業生産基盤の継続的な整備  
地域組織が主体となって取り組む農地・水路・農道などの地域資源の保全活動を支援しました。  
1億4,317万円



(工事後) ▲地震により落下する危険がある天井を改修(城崎小学校)▲ (工事前)

個性豊かで誇りのもてるまちづくり  
●観光産業の活性化  
●観光資源の魅力向上  
越前岬水仙ランド周辺に単独発行型LED(ペットボトル)を設置し、夜間のライトアップを行いました。また、28年度から予定する自然文学資料館などの改修に係る設計を行いました。  
2,761万4千円



▲水仙岬のかがやき 水仙ランド一面に光るペットボトル

●漁業の担い手育成の推進  
越前がにミュージアムを漁業の人材育成と「越前がに」の調査研究の拠点施設とするべく、設備の改修を行いました。  
1億8,626万7千円

●新たな誘客戦略の展開  
文化・スポーツ合宿などで町内に宿泊する県内外の人に対し宿泊費の一部を補助しました。平成27年度は延べ7,370人を誘客しました。  
1,112万3千円

# わたしたちのまちの財政状況

平成27年度決算の健全化判断比率と資金不足比率は「健全」

■実質公債費比率は10.5%

■将来負担比率は5.1%

健全化判断比率と資金不足比率は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、各年度決算に基づき算定されます。この比率には、法律で定められた早期健全化基準や経営健全化基準があります。比率のいずれかが基準を超えた場合は、財政健全化計画や経営健全化計画を策定し、財政の早期健全化や公営企業の経営の健全化を図らなければなりません。平成27年度決算ですべての比率が基準を下回り、財政は「健全」となっています。

「実質公債費比率」とは、町債(借金)の返済額などが標準財政規模(※)に占める割合です。町債の返済額などには、一般会計に加え、上下水道・病院の公営企業会計、ごみ処理や消防の一部事務組合に対する町の負担金のうち、それら団体の借金の返済に充てられたとみられる額も含まれています。この比率が高いほど、町財政に対する借金の返済などの負担が大きくなります。

町では、これまで借金の繰り上げ返済や金利の低い借金への借り換え、事業の計画的な実施により借金を減らしてきました。

この結果、実質公債費比率は、平成27年度決算では10.5%となり、ピーク時の平成18年度と比べ14.3ポイント、前年度と比べ0.5ポイント改善しました。

(※)町税や普通交付税、各種譲与税・交付金など、使途が限定されない通常の年間収入の合計額

「将来負担比率」とは、将来負担しなければならぬ実質的な負担が標準財政規模に占める割合です。将来負担しなければならぬ実質的な負担は、次のものなどの合計です。

- 町債(借金)の残高
  - 上下水道・病院の公営企業会計やごみ処理・消防の一部事務組合の借金の返済に充てる一般会計などの負担見込額
  - 職員の退職手当支給予定額
- この比率が高いほど、現在背負っている借金などが将来財政を圧迫する可能性が高いこととなります。

町では、町債の残高の縮減や財政調整基金への積立てにより将来的な負担の軽減を図っています。平成27年度は町債の繰上償還を実施しています。

この結果、将来負担比率は、平成27年度決算では5.1%となり、平成19年度と比べ14.6.3ポイント、前年度と比べ19.0ポイント改善しました。

## 平成28年度9月補正予算の概要

予算規模

	補正前予算額	補正額	補正後予算額
一般会計	127億9,009万円	2億3,179万円	130億2,188万円
特別会計	67億9,926万6千円	1億293万円	69億219万6千円
事業会計(水道)	4億2,324万8千円	1,119万2千円	4億3,444万円
合計	200億1,260万4千円	3億4,591万2千円	203億5,851万6千円

※病院事業会計の補正はありません。

9月補正予算の補正額は、次のとおりです。

【主な補正内容】

- ふるさと納税ポータルサイトの導入による事業委託料を増額
- 臨時福祉給付金の加算対象者数が確定したため、給付金を増額
- 乳児を対象としたB型肝炎予防接種委託料の増額
- 多世帯同居・近居住まい推進事業対象者の増加により、事業補助金を増額